

矢作川流域圏懇談会通信

H27 市民企画会議編 vol.1



発行日：平成 27 年 5 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 14 回市民企画会議を開催しました！

5 月 11 日（月）に矢作川流域圏懇談会第 14 回市民企画会議を開催しました。流域連携テーマについて、山・川・海の部会の壁を越えて話し合いました。

日時：平成 27 年 5 月 11 日（月）18:00～20:30
会議場所：豊田市職員会館 3 階 第 1 部室
参加者：16 名（事務局含む）



◆主な会議内容

■流域連携テーマの進め方について

流域連携テーマである「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」について、矢作川流域での課題を抽出し、今後の進め方について意見交換を行った。

◆話し合いでの主な意見

（・意見 ▶回答）

■ごみ・流木

- ・本問題を議論するためにはごみ・流木の具体的なデータが必要である。ゴミの量のデータを集めて発生源を潰すこと、人目を増やしてゴミを捨てにくくすることが重要である。（洲崎）
- ・生活に由来するゴミは小さいため網に絡むのが問題である。東幡豆の海岸は水上バイクのメッカになっていて、休日の後はビニール袋（ゴミ）が並んでいる状況である。（石川）
- ・現在の行政にはゴミをなくす意識が低いので、市民から行政を動かしていく必要がある。（洲崎）
- ・ゴミを集めた後、どう処理するかというシステムがない。地元がゴミを集めたら重さに応じて報酬を出すなど、行政がゴミを買い取る制度があつたらいい。（光岡）
- ・ゴミ問題の解決には段階があり、①ゴミを出さないようにする、②出たものをどうする、について課題、解決策、根拠について示し、矢作川流域のあるべき姿について懇談会で提言すべきである。（今村）

■土砂

- ・矢作ダムは土砂をとる必要があるのに対策がないのはおかしい。小笠ダムの土砂バイパストンネルや福井の事例などを参考に、ダムとともに生きるにはどうすべきかを考えていくことが重要である。砂を流す砂防堰堤を取り入れるなども効果があるだろう。（本守）
 - ▶ バイパス工事については、構造などについて検討している最中である。天竜川の上流では、ウォッシュロードのみを対象にしている。矢作川では、ダムがある場合、年平均 10 万 m³ が海へ出ており、そのうちの 9 万 m³ がシルトであるとされている。また、ダムなしの場合は 16 万 m³ が海へ流出するという試算が出ている。矢作川は天井川なので途中で土砂が止まってしまうと考えられる。（大森）
- ・土砂量についての情報の説明のし方が非常に理解しにくい。まずイメージを示し、山・川・海それぞれの課題を出し、それを実証、検証して研究テーマを示せばよいのではないかと。研究の進捗は市民に分かるように示していくべきである。（今村）
- ・総合土砂管理については、研究の進捗状況や資料の内容がわかりにくい。（洲崎）
 - ▶ 「総合土砂管理の策定に向けて」が、辻本委員長の了承を得てもうすぐ公開されるが、すぐには課題解決が難しいということも示されている。わかりやすい説明などを行っていく予定である。（大森）

■木づかい

- ・水資源の確保、森林管理を長野・岐阜・愛知の上下流連携で行い、下流での木のある暮らしと上流での森の管理といったモデルを矢作川で示していきたい。（今村）
- ・バイオマス、バイオガスというような活用方法もあるようだが、どのようになっているか。（大森）
 - ▶ 「流域材については、豊田市はホルツ三河、根羽村は単独で流域の工務店でやれる仕組みがある。（今村）
- ・下流域の協力を得るには、バイオマスエネルギーの安価買い取りなどのメリットが必要である。（本守）
- ・矢作川流域材システムを作るには、トヨタ自動車などの企業に参画してもらって色々提案していくべきである。生態系ネットワーク（協議会）でできるのではないかと。（高橋）
- ・職人の話が出ないのはおかしい。土壁を付けられる職人が各県にどれだけ残っているだろうか。愛知県にはまだいるが、周辺県においては厳しい状況であり、職人の育成が課題である。（黒田）



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。